

# 相模中学校だより 8月号

令和2年8月5日 発行：校長 金子憲勝

例年と違い、1学期の終業式は8月7日ですが、今学期は新型コロナウイルス感染症に大きく影響された学期でした。4・5月は休みの日が続き、6月1日から再開することができましたが、この激動の1学期を乗りきることができたのは、保護者の皆様の学校教育に対するご理解とご協力のお陰と心より感謝しております。誠にありがとうございました。

今号は、7月18日（土）から始まった座間市中学校体育連盟の夏季大会の特集号です。本来であれば、県央大会や県大会に繋がる大会だったのですが、上部大会が全て中止になったため、市内大会だけになりました。しかし、市内大会だけになったとはいえ、どの部活動においても生徒たちは最後まで全力で試合を行っており、その姿を見て心打たれました。私は、人生の中において「節目」がとても大切だと思っています。その「節目」の中でも特に大切なことは、「始め」と「終わり」です。3年生にとっては、この市内大会が最後の大会になった生徒が多くいましたので、この「節目」の大会を精一杯戦っている姿を見て感動するとともに、生徒たちを大変いとおしく感じました。今回の相模中学校だよりには、生徒会副会長の古村帆海さんの部活動に対する思いを紹介します。

私は、ソフトテニス部に3年間所属していました。最初は、楽しそうだからという簡単な理由で入部したのですが、気づけば「ソフトテニスをもっとやってみたい!」「ソフトテニス部に入って良かった!」と、思うようになりました。なぜならば、顧問の先生方や仲間が存在があったからです。私が、学級委員の集まりなどで部活に行けなくても、部活に参加できた時には優先して打たせてもらい、なかなか上達しない私につきっきりで指導していただいたから、今の私があるのだと思います。あきらめずに続けてきて、本当に良かったです。あきらめずに続けた結果として、達成感があると私に教えてくれたソフトテニス部には、本当に感謝しかありません。今後、ソフトテニス部で学んだことを生活に活かしていけるように頑張ります。



上の写真は、左からバドミントン・サッカー・バレーボール・剣道の試合の様子です。どの部も、あきらめずに最後まで精一杯戦っていました。一生懸命に試合をしている生徒たちは、輝いていました!!



続いて、上の段の左からバスケットボール（男子）・バスケットボール（女子）・卓球（男子）・卓球（女子）、下の段の左から軟式野球・ソフトボール・ソフトテニス（男子）・ソフトテニス（女子）の試合の様子です。中学校生活の集大成の試合で頑張る3年生の姿を見てると、胸が熱くなりました。（相模中学校だよりのカラー版や部活動の試合の様子は、学校ホームページに載せていますのでどうぞご覧ください。）